ら輸入している。我が国が求める品質に適う農作物が安定的に生産・輸出されているかの観点で、これらの国の生産・輸出に関する動向を注視することが基本となる。

また、我が国の主要輸入相手国ではないものの、世界的に見れば主要な輸出国・地域であるEU、ロシア、ウクライナ等の生産・輸出に関する動向についても、世界の食料貿易に大きな影響を与え、それが我が国にも波及し得ることから、注視が必要となる。

（関連する指標）

①　世界の農産物輸出市場の動向

OECD及びFAOによると、2023年時点において、全世界の生産量のうち、小麦、なたね、とうもろこしは15～25%程度、大豆は40%程度が国際的に取引されており、需要量、生産量がそれぞれ増加する中においても、生産量に占める貿易量の割合はいずれの品目でも横ばいで推移すると見込まれている。

また、それぞれの品目において、輸出上位５カ国・地域により、全輸出量の大宗（小麦は約70%、大豆、なたね、とうもろこしは約85～95%）が輸出されている。

②　日本の主要輸入相手国の生産量、輸出量

米国農務省によると、我が国の主要輸入品目に関して、主要輸入相手国の2023/24年度の生産量、輸出量（括弧内は世界の輸出総量に占める割合）は以下の状況にある。

ア　米国

小麦を約4,900万トン生産し、約1,900万トン（約8.7%）輸出。
大豆を約1.1億トン生産し、約4,600万トン（約26%）輸出。
とうもろこしを約3.9億トン生産し、約5,800万トン（約30%）輸出。

イ　カナダ

小麦を約3,300万トン生産し、約2,500万トン（約11.5%）輸出。
大豆を約700万トン生産し、約480万トン（約2.7%）輸出。
なたねを約1,900万トン生産し、約670万トン（約36%）輸出。

ウ　豪州

小麦を約2,600万トン生産し、約2,000万トン（約9.0%）輸出。
なたねを約610万トン生産し、約620万トン（約33%）輸出。

エ　ブラジル

大豆を約1.5億トン生産し、約1.0億トン（約59%）輸出。
とうもろこしを約1.2億トン生産し、約4,000万トン（約20%）輸出。

また、生産量や輸出量の長期的な動向に加え、直近の収穫期の短期的な生産量・輸出量の見通しについて把握することも重要である。多くの国が、自国の食料の生産動向や作況等を公表しており、これらの情報も注視する必要がある。

（２）主要輸入国の動向

日本は過去には世界１位の農林水産物の純輸入国であり、プライスメーカー的な地位にあったものの、現在は中国が世界最大の純輸入国になるなど、貿易市場における我が国の地位は低下している。今後も新興国を中心とした人口増加・経済成長に伴い、これらの国の国際市場における存在感が増す中、人口減少が進行する我が国の国際市場における地位の低下や、他の輸入国との価格競争の激化が懸念される。

（関連する指標）

①　主要農産物の世界の主要輸入国・地域の輸入量

米国農務省及び各国統計によると、我が国の主要輸入品目に関して、世界の主要輸入国の輸入動向は以下のとおりである。

ア　中国

我が国の主要輸入品目に関して、各品目で我が国を上回る量を輸入しており（2023/24年度の輸入量：小麦約1,400万トン、大豆約1.1億トン、なたね約550万トン、とうもろこし約2,300万トン）、特に小麦、なたねに関しては主な輸入相手国が日本と重複している状況にある。長期的には人口減少により、これらの品目を含む食料需要は横ばいから減少傾向で推移していくことが見込まれているが、人口が大きい同国の輸入量の推移については、その動向を注視する必要がある。

イ　メキシコ

大豆、とうもろこしに関して、近年輸入量の大きな増加が見られる（2023/24年度の輸入量:大豆約650万トン、とうもろこし約2,500万トン）。これらの輸入の多くはブラジル及び米国から行われている。特にとうもろこしに関してはメキシコが世界最大の輸入国となっており、その米国からの輸入量は日本の輸入量を上回るなど、輸入市場における存在感が増していることから、その動向を注視する必要がある。

ウ　EU

なたねに関して、世界有数の輸入地域となっている（2023/24年度の輸入量：約550万トン）。輸入の多くは豪州・ウクライナから行われており、このうち豪州は、日本の主な輸入相手国でもあり、主な輸入相手国が重複している状況にある。ウクライナ情勢やバイオ燃料需要の動向によってはその国際市場に影響がある可能性があることから、その動向を注視する必要がある。